

ライティング支援連続セミナー体験記

知識と言葉をめぐる冒険「事実？意見？」

セミナー講師：野村港二先生(教育イニシアチブ機構)



ライティング支援連続セミナーに、中央図書館
学生サポートデスクのラーニング・アドバイザーさんが潜入！
充実の体験レポートを届けてくれたよ！

Lesson1 図表を文章で表現する (2013/07/04(木) 15:30～16:30)

中央図書館ラーニング・アドバイザー 金井 雅仁(人間総合科学研究科)

セミナーは「自分が得た情報を『経験を知らない他人』に言葉で正確に伝えることは可能か？」という問いから始まりました。その問いを受け、最初に「配られたツバキの葉を、目を閉じて触り、気づいたことを書く」というワークを行いました。私もそのワークに取り組み、「周りがギザギザしている」など、気づいたことを書きあげました。しかし、野村先生が受講生に気づいたことを尋ねると、私は気づかなかった指摘がたくさん出てきました。しかも、どれも葉を触りながら聞くと納得ができるものでした。

果たして、自分が得た情報を、「経験を知らない他人」に、言葉で正確に伝えることは可能なのでしょうか？ このワークでは、私は他の受講者が発言した葉についての情報(例えば、表側はつるつるしていて裏側はざらざらしている、など)を正確に受け取ることができました。しかし、野村先生はこれについて、「葉の特徴が正確に分かるのは葉を見たことがあるから」「表、裏と言われても、葉を見たことがない人、すなわち経験を共有したことのない人は、目を閉じていたらどちらが表か分からない」と仰いました。

ここから先生は、図表と文章の役割の違いについて説明してくださいました。「図表は、葉それ自体のように、経験の共有がなくても具体的な情報を素早く伝えることができる。一方、文章は、葉について述べられた説明のように、経験の共有がないと正確に伝わらない可能性があり、図表ほど全体のイメージを素早く伝えることもできない。しかし、情報をどう捉えて欲しいかを限定することができる」。このように図表と文章の役割は異なり、自分で図表・文章を作る際には役割の違いを意識するとよいということを教えてくださいました。最後には野村先生から「とにかく図表を文章で表現してみる」というメッセージもあり、終始和やかな雰囲気の中でセミナーは進んでいきました。図表と文章の役割の違い、意識していれば誰にとっても分かりやすいレポート・論文を書けるような気がします。

NEXT!

→野村先生の Lesson2 のレポートをお届け！

